

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成24年6月21日(2012.6.21)

【公表番号】特表2011-520526(P2011-520526A)

【公表日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2011-029

【出願番号】特願2011-509769(P2011-509769)

【国際特許分類】

A 6 1 N 1/08 (2006.01)

A 6 1 N 1/36 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 1/08

A 6 1 N 1/36

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月2日(2012.5.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

移植可能な呼吸センサーシステムであつて、

リード線本体とセンサー部とを含み、前記センサー部が前記リード線本体から延出し、少なくとも圧力変換器を含み、前記圧力変換器が前記センサー部の単一側の呼吸圧力を感知するよう構成された方向性検出素子で定義されるセンサリード線と、

前記リード線本体上の固定位置に配置した第1の係留具と、
を備え、

前記第1の係留具は、前記センサリード線の反対側から外方に延出し、前記センサリード線に概ね直交する一対の弾性翼を有し、

各翼は外側先端と、前記外側先端より広い基部とを有しており、

前記センサー部の前記単一側が肺に対向して留まるように、前記翼は標的組織から前記方向性検出素子が回動離間しないよう構成されているセンサーシステム。

【請求項2】

各翼は縫合孔を割愛した、請求項1に記載のセンサーシステム。

【請求項3】

前記第1の係留具は、前記センサリード線の先端に隣接する前記センサー部に配置した、請求項2に記載のセンサーシステム。

【請求項4】

前記固定された第1の係留具は、前記センサリード線の長さに沿って前記センサーから略3~9cm離間させた、請求項2に記載のセンサーシステム。

【請求項5】

前記外側先端が曲がっており、前記翼が前記基部から前記曲がった外側先端に行くにしたがって次第に狭くなっている請求項1に記載のセンサーシステム。

【請求項6】

前記翼のそれぞれが概ね平坦な断面形状を有している請求項1に記載のセンサーシステム。

【請求項7】

各翼の前記基部が各翼の前記先端より厚い請求項1に記載のセンサーシステム。